

具体的対応方針の再検証（案）

令和4年3月4日青森県地域医療構想調整会議（津軽地域） 資料2-2

地域	病院名	H29.7.1					R7.7.1					(参考)コロナ病床 R3.12現在	再検証の内容 (H29.7時点からR7までの対応)					病院側の考え 【病院プロフィールシートを参考に、病床（規模等）及び医療機能（主に再検証の観点）について記述】	県の考え (再検証の確認結果と求められる医療機能等) 【平成28年度調整会議資料なども参考に整理】		
		合計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟中	合計	高度急性期	急性期	回復期		慢性期	休棟中	再編・統合	減床	転換			調整中	見直しなし
津軽	弘前大学医学部附属病院	597	597				597	477	120				9					○	病床：規模維持（高度急性期の一部を急性期に変更） 医療機能：救急の領域やへき地医療支援の領域も引き続き担う	・再検証として、「見直しなし」は妥当 ・大学として教育、研究、医師派遣等の機能を引き続き担う	
	国立病院機構弘前病院	342		342			442		442				21	○	急100				病床：増床（再編・統合） 医療機能：新中核病院として、心疾患、救急、小児、災害の領域も引き続き担う 脳卒中、へき地の領域については、連携等により対応	・再検証として、再編・統合による医療機能集約は妥当 ・新中核病院整備後は、引き続き二次救急、高度医療、若手医師の育成等の役割を担う	
	弘前市立病院	250		214	36		0						4	○	急▲214 回▲36				令和3年度末で廃止		
	黒石病院	257		257			257		227	30			2			急▲30→回			病床：規模維持、転換（今後） 医療機能：がん、心疾患、脳卒中、救急、小児、周産期の領域も引き続き担う。	・再検証として、「転換」は妥当 ・病床規模の見直し及び回復期機能への転換等について引き続き検討	
	板柳中央病院	87		55		32	80			48	32				急▲7	急▲48→回			病床：減床、転換 医療機能：救急、研修・派遣の領域も引き続き担う	・再検証として、「減床・転換」は妥当 ・更なる病床規模の見直し及び回復期機能への転換、コロナ対応等について引き続き検討	
	大鰐病院	60		60			19			19					急▲41	急▲19→回			病床：診療所（R5.1月開業予定）として縮小（減床、転換） 医療機能：がん、心疾患、救急の領域を縮小 脳卒中の領域は、廃止	・再検証として、「減床・転換」し、有床診療所とすることは妥当 ・診療所として地域に必要な機能を担う	

注 黒字は実施済み又は実施中、赤字は今後実施

参考) 高度急性期機能及び急性期機能の病床を有する民間病院

弘前中央病院（174床）、鳴海病院（116床）、弘前記念病院（171床）、健生病院（282床）、ときわ会病院（149床）、脳卒中・リハビリテーションセンター（248床）